



「Beginnig Step Program」は、1 年次に異文化を体験させることで大学での学びの方向性を見つけさせることが目的。通常授業に支障がないよう長期休暇中に実施し、単位認定もする。

海外での国際体験、留学のプログラム

プログラム名	レベル	内 容
Beginning Step Program	★	全学部1年生対象。期間は10日間。タイ、ベトナム、中国、台湾のいずれかで異文化体験をする。
語学研修(短期)	★★	長期休暇を利用して1か月程度、言語を学ぶとともに異文化を肌で感じる短期の海外研修。
海外ボランティア	★★	「インド異文化ボランティア体験セミナー」「国際ワークキャンプ」「インドネシアCOP」「内モンゴル緑化ボランティア体験セミナー」など。
フィールドスタディ	★★	実地調査型のプログラム。『ヨーロッパエコスタディ』『イタリアフィールドスタディ』など。
国際インターンシップ	★★★	アメリカ(ロサンゼルス)や中国(香港)で2～3週間のインターンシップを体験。
海外英語特訓留学	★★★★	英語力の向上を目的とした1学期間の留学。
英語特待生留学	★★★★	国際教養学部生向けのプログラム。英語圏の協定校に1学期間留学して英語を集中的に学ぶ。
海外日本語教育実習制度	★★★★★	日本語教員の資格取得をめざし、「日本語教員資格課程」を受講する学生のためのプログラム。
長期派遣留学	★★★★★	1学期間から2学期間、海外協定校へ留学。

★ 1年次限定の海外留学入門プログラム
★★ テーマに沿った活動で異文化により深く触れる
★★★ ビジネスや語学など専門性のある分野に挑戦
★★★★ 目的意識を持ち異文化の中で暮らすハイレベルな留学体験

外部検定を導入した理由は、客観的な尺度を用いて英語力を測れるから。1、2年生全員にGTECを受検させています。入学時はブレイクテストとして活用し、2年次のテストで入学後の伸びを測定します。

—— 学生の英語力はどのようになっているのでしょうか？
1、2年生全員にGTECを受検させています。入学時はブレイクテストとして活用し、2年次のテストで入学後の伸びを測定します。

—— 語学学習については、どのような取り組みがありますか？
必修科目の英語以外に、英語をより学びたい学生向けに、複数の英語科目を導入しています。また、それ以外でも、外国語教育センターが中心となって、課外ワークショップを実施しています。ディスカッションやディベートの力を向上させるためのワークショップ、語彙力アップや発音の改善を目的としたプログラム、留学から帰国後の英語力維持にも対応する上級プログラム、TOEIC対策などさまざまな内容があり、学生は目標や英語のレベルに応じて好きなプログラムに参加できます。

—— 語学学習については、どのような取り組みがありますか？
必修科目の英語以外に、英語をより学びたい学生向けに、複数の英語科目を導入しています。また、それ以外でも、外国語教育センターが中心となって、課外ワークショップを実施しています。ディスカッションやディベートの力を向上させるためのワークショップ、語彙力アップや発音の改善を目的としたプログラム、留学から帰国後の英語力維持にも対応する上級プログラム、TOEIC対策などさまざまな内容があり、学生は目標や英語のレベルに応じて好きなプログラムに参加できます。

—— 今後の展開について教えてください。
多くの学生に海外体験をしてもらうには、「大学で何かを変えたい。変わりたい」と考えている1年次がポイントになるでしょう。早い段階から海外に目を向けさせるしくみづくりを、さらに進めていきたいと考えています。

—— 今後の展開について教えてください。
多くの学生に海外体験をしてもらうには、「大学で何かを変えたい。変わりたい」と考えている1年次がポイントになるでしょう。早い段階から海外に目を向けさせるしくみづくりを、さらに進めていきたいと考えています。

一步先を行く大学に聞きました！



桃山学院大学



桃山学院大学学長 牧野 丹奈子

まきのになこ ● 1961年生まれ。1984年大阪大学工学部環境工学科卒業。1986年同大学大学院工学研究科前期課程修了。1991年桃山学院大学経営学部専任講師、2003年同大学経営学部教授。経営学部学部長を経て、2016年5月より現職。博士(経営学)

多彩なプログラムを提供し 初年次から段階的に異文化に触れさせる

身に付けてほしいのは多様性を受け入れる力
—— 貴学のグローバル人材育成の方針をお聞かせください。
グローバル化が進展すれば、国際間の競争がいつそう激しくなり、どんな小さな企業でも効率化や合理化が求められます。世の中の進歩や個人の成長のためには、競争に勝つことは大切です。しかし、競争だけを重視すると、視野が狭い人間になってしまいます。

豊かな人生を送るためには、目の前の人を愛する心、人の役に立ちたいという思い、それを実現するための覚悟が必要でしょう。
—— 学生に、どのような力を身に

付けさせたいとお考えですか？
グローバル社会においては、多様性の受容が非常に重要だと考えます。学生には、異なる文化、人種、宗教などの多様性をしっかりと受け入れる力、また、そうした多様性の中で自分の道を切り開く力を付けてもらいたいと考えています。

—— 具体的な取り組みについて教えてください。
グローバル教育に限らず、「まず体験させ、そこで得た気づきや学ぶことの楽しさを、次の学びにつなげてもらう」というプロセスを大事にしています。そのため、語学力不問のプログラムを数多く用意しました。

取材・文／本間学 撮影(牧野丹奈子学長)／岸隆子

桃山学院大が提供する留学・国際体験	
キャンパス内での国際体験	・レジデント・アシスタント制度 4、5名の学生が留学生の住むマンションに居住し、国際センターと協力しながら生活全般をサポート。 ・バディー制度 担当の日本人学生が、留学生の日常生活を1対1でサポートする。
海外での国際体験	語学力不問の短期研修から、将来につながる力を本気で身に付けたい学生のための長期留学まで、目的や語学レベルに応じたプログラムを多数用意。
English Program	外国語教育センターが企画する、英語学習のためのワークショップ。「ENGLISH LUNCH」「多読のスヌ」[「はじめてのTOEIC」]「Build Your Vocabulary」[「発音ワークショップ」]など。